



Broadcom シェル

- [Broadcom シェルについて](#) (1 ページ)
- [注意事項と制約事項](#) (1 ページ)
- [Broadcom シェル \(bcm-shell\) へのアクセス](#) (1 ページ)

Broadcom シェルについて

スイッチの前面パネルおよびファブリック モジュール ライン カードには、Broadcom Network Forwarding Engine (NFE) が搭載されています。NFE の数は、前面パネルラインカード (LC) またはファブリック モジュール (FM) の特定のモデルによって異なります。

注意事項と制約事項

T2 ASIC の情報は、制限なくアクセスして読み取ることができます。ただし、Cisco は T2 の構成設定の変更を推奨していません。Broadcom シェルにアクセスする場合は注意してください。

Broadcom シェル (bcm-shell) へのアクセス

次のセクションでは、Broadcom シェル (bcm-shell) にアクセスする方法について説明します。

CLI API を使用した bcm-shell へのアクセス

bcm-shell コマンドは、Cisco NX-OS CLI から特定の T2 ASIC インスタンスに直接渡されます。T2 ASIC インスタンスは、ファブリック モジュールまたは前面パネル ライン カード上に配置できます。

コマンドの構文は、次のとおりです。

```
module_number [ instance_number:command ] bcm-shell module
```

場所

<i>module_number</i>	シャーシのモジュール番号。
<i>instance_number</i>	T2 インスタンス番号 - 指定しない場合、T2 インスタンス番号はデフォルトで 0 に設定されます。 - ワイルドカード（「*」）を指定すると、すべての T2 インスタンスが処理されます。
<i>command</i>	Broadcom コマンド



(注) 「pipe include」や「redirect output to file」などの Cisco NX-OS コマンド拡張を使用して、コマンド出力を管理できます。



(注) CLI API を使用してコマンドを入力すると、監査目的でシステムアカウントログに記録されます。bcm-shell から直接入力されたコマンドは、アカウントログに記録されません。

ファブリック モジュールのネイティブ **bcm-shell** へのアクセス

8 スロットラインカード (LC) シャーシは、最大 6 つのファブリック モジュール (FM) をホストできます。これらのスロットには 21 ~ 26 の番号が付けられており、bcm-shell にアクセスする FM を指定する必要があります。

次に、スロット 24 の FM の bcm-shell にアクセスし、コンテキスト ヘルプにアクセスし、bcm-shell を終了する例を示します。

- **show module** コマンドを使用して FM を表示します。

```
switch# show module
Mod Ports Module-Type Model Status
-----
3 36 36p 40G Ethernet Module N9k-X9636PQ ok
4 36 36p 40G Ethernet Module N9k-X9636PQ ok
21 0 Fabric Module Nexus-C9508-FM ok
22 0 Fabric Module Nexus-C9508-FM ok
23 0 Fabric Module Nexus-C9508-FM ok
24 0 Fabric Module Nexus-C9508-FM ok
25 0 Fabric Module Nexus-C9508-FM ok
26 0 Fabric Module Nexus-C9508-FM ok
27 0 Supervisor Module Nexus-SUP-A active *
29 0 System Controller Nexus-SC-A active
```

- モジュール 24 に接続して、スロット 24 の FM のコマンドラインにアクセスします。

```
switch# attach module 24
Attaching to module 24 ...
To exit type 'exit', to abort type '$.'
```

- コマンドを入力して、ファブリック モジュール ソフトウェアへの root アクセスを取得します。

```
module-24# test hardware internal bcm-usd bcm-diag-shell
Available Unit Numbers: 0 1
bcm-shell.0> 1
```

この時点で、スロット 24、T2 ASIC インスタンス 1 のファブリック モジュールの Broadcom シェルが表示されます。入力するすべてのコマンドは、この特定の ASIC インスタンスに固有のものであります。

- bcm-shell を終了し、FM から切り離すには、exit コマンドを使用します。

```
bcm-shell.1> exit
module-24# exit
rlogin: connection closed.
```

ラインカードの bcm-shell へのアクセス

ラインカード (LC) の T2 ASIC に接続する場合は、まずモジュールに接続し、root モードを開始し、shell access exec を実行して、接続する ASIC インスタンスを選択します。使用可能な ASIC の数は、接続しているラインカードのモデルによって異なります。

次に、スロット 2 の LC の ASIC インスタンス 1 の bcm シェルにアクセスし、3 つの T2 インスタンスを含む LC の bcm シェルを終了する例を示します。

- モジュール 2 に接続して、スロット 2 の LC のコマンドラインにアクセスします。

```
switch# attach module 2
Attaching to module 2 ...
To exit type 'exit', to abort type '$.'
Last login: Wed Aug 7 14:13:15 UTC 2013 from sup27 on tty0
```

- コマンドを入力して、ラインカードソフトウェアへの root アクセスを取得します。

```
switch-2# test hardware internal bcm-usd bcm-diag-shell
Available Unit Numbers: 0 1 2
bcm-shell.0> 1
bcm-shell.1>
```

この時点で、スロット 2、T2 ASIC インスタンス 1 のラインカードモジュールの Broadcom シェルを使用している状態になっています。

- exit コマンドを使用して bcm-shell を終了し、FM から切り離します。

```
bcm-shell.1> exit
module-2# exit
rlogin: connection closed.
```


翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。